

令和7年度 岡山県立勝間田高等学校 学校経営計画書

I 校訓

<input type="checkbox"/> 質実剛健	安達清風先生の「有功学舎」建学の精神を継承
<input type="checkbox"/> 種徳共生	創立100周年記念に21世紀を切り拓く後輩へ、先輩から送られたメッセージ
<input type="checkbox"/> 至誠実行	平成17年4月引き継いだ、日本原高校の校訓

II 県が示す本校のスクールミッション

幅広い知識と教養を培い、多様な学習ニーズに応える学校として、生徒の幅広い進路希望に対し、森林や自動車などの特色ある系列での学びや、積極的な地域との連携により、身に付けた専門知識や技術を活用する教育活動を通して、得た資質・能力を発揮することで、社会的・職業的に自立し、地域社会の発展に貢献する人材の育成を目指す。

III 学校教育目標（学校のミッション、使命・存在意義）

- 1 誠実・明朗で勤労精神にあふれ、真摯に努力する心身共に健全な人材を育成する。
- 2 自律心と責任感を持ち、他者との協働と創意工夫により社会の変化に対応し、地域産業（特に農林業・自動車関連産業・商業）に貢献する人材を育成する。
- 3 郷土の文化や自然を愛し、心豊かで生涯にわたり学び続ける姿勢をもった人材を育成する。

IV 学校内外の環境分析 「強み・弱み」

	内部環境	外部環境									
強み	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校運営協議会の存在 ○ 教職員の協働体制 ○ 多様な専門性を持つ教職員集団 ○ 教育施設・設備の充実 ○ 5つの専門系列（コース）設置 ○ 地元を支える人材の継続的な育成 ○ 専門機関(SSW・SC・警察等)との強い連携 ○ 問題行動・生徒指導件数の減少 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 勝央町・しょうおう志援協会との三者協定締結 ○ 地域との連携が強い ○ 地域への貢献度の上昇 ○ 勝央町内の中核工業団地の存在 ○ 勝央町の人口(1万人)は維持状態 ○ 個に応じた指導・支援が受けられるイメージ ○ 進路実現に対して「面倒見が良い」イメージ 									
弱み	<ul style="list-style-type: none"> □ 教職員間での情報共有や連携不足 □ H23 から14年連続定員割れ □ 生徒数減少（教員数減少） □ 教員の多忙感・疲弊感 □ 要支援生徒対応の増加（H31より通級指導） □ 学習・生活習慣に課題ある生徒の増加 □ 原級留置者が多い □ 自己肯定感が低い生徒が多い 	<ul style="list-style-type: none"> □ 「問題行動の多い学校」という先入観の存在 □ 公共交通機関の利便性が良くない □ 勝間田高校周辺中学校卒業生数の減少 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>高校入学年度</td> <td>R7</td> <td>R10</td> </tr> <tr> <td>中学校卒業見込者数</td> <td>611</td> <td>566</td> </tr> <tr> <td>入学者数</td> <td>75</td> <td></td> </tr> </table> <p>※対象：勝央町・奈義町・美作市・津山市の一部 ※R10は推計値</p>	高校入学年度	R7	R10	中学校卒業見込者数	611	566	入学者数	75	
高校入学年度	R7	R10									
中学校卒業見込者数	611	566									
入学者数	75										

V ミッションの追求を通じて、実現しようとする本校のビジョン（将来像・目指す姿）

- ◎ 地域や社会で活躍・貢献できる人材の育成
 - ① 社会に通用する生徒
 - ② 専門知識・技術を身に付け、活用できる生徒
 - ③ 勝間田高校に『誇り』をもてる生徒

VI 本年度の重点目標と具体的な取組

～生徒が『誇り』を持つために～

- 1 学力向上
基礎・基本の徹底 専門知識・技術の習得 1人1台端末を活用した学習活動の充実
- 2 生活習慣の確立
ルールの遵守 挨拶の励行 自己管理能力の向上
- 3 進路実現
キャリア教育の充実 学校生活(地域連携活動・部活動等の課外活動、資格取得等)の充実
- 4 情報発信・広報
教育活動の見える化 三者協定に基づく地域連携活動の充実 HP・SNSの活用

VII 生徒の声（R7.5.13 生徒総会より）

◎勝間田高校を一人ひとりが自立できる学校にする！